

諸國

服部應賀編
温泉遊覽記

上州之部

全

特32

680

022538-001-3

特32-680

諸國温泉遊覽記

服部 應賀(万亭) / 編

M15

ADB-0218



諸温遊記
國泉覽

温泉

伊香保温

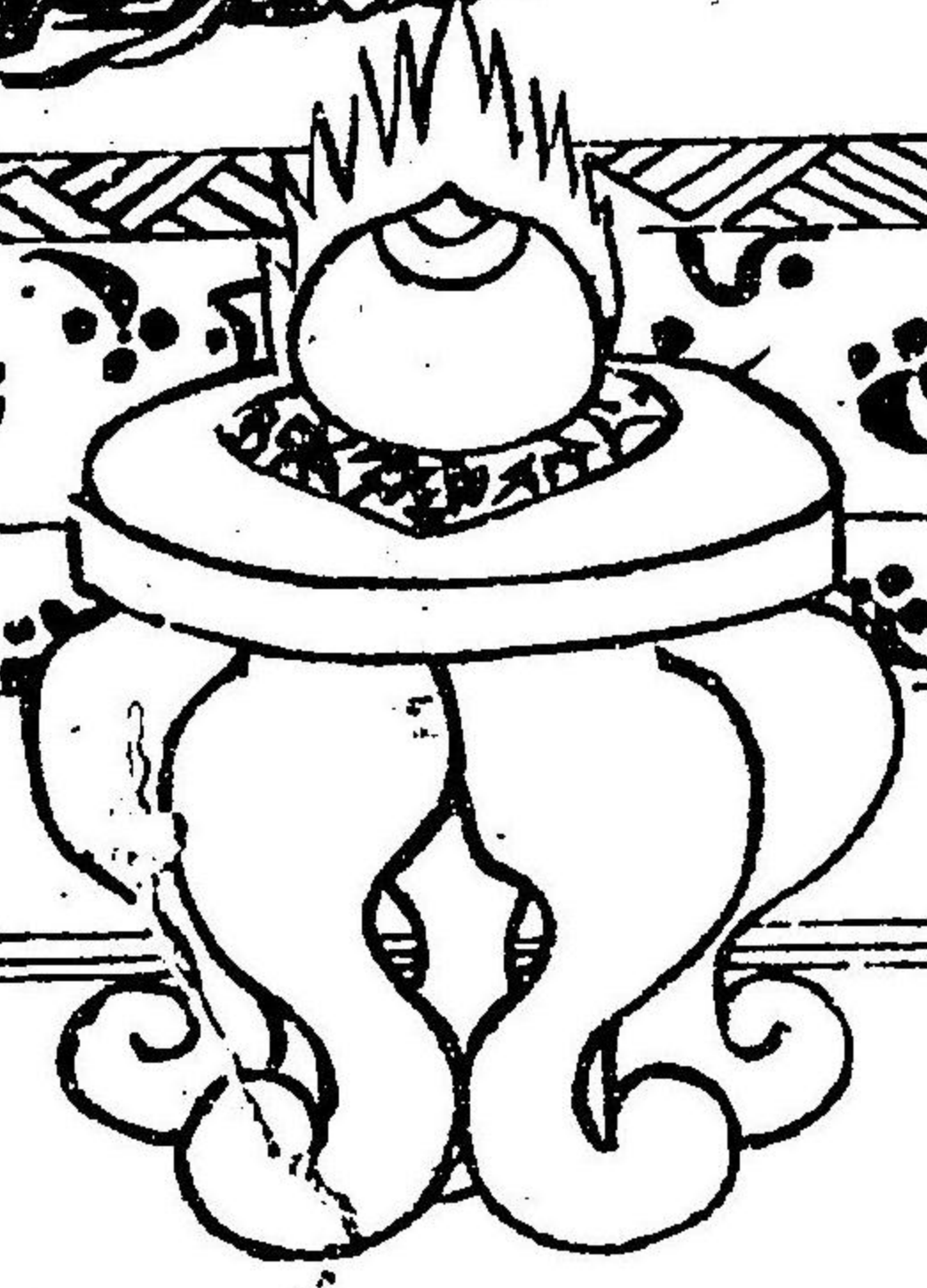
上州伊香保
温泉名所四跡
萬年湯



天宮より
お鹿が
まぐ
りまで
なごる
宿屋の
福祿寿梅

万亭庵 國語

吉本 國語



千巻下

伊香保温泉

上野國群馬郡
伊香保村

當所の温泉は
善仁天皇の御宇
より諸人治りて
諸病を癒はると
あり年々盛上り
功徳ひろまじが
近年又泉換の
分株ありてより



更ニ湯女子の
身み強しはる
どの川と郡
の男女険阻を
去のた此所は
保養しと健
康よ得まら
者旅人ど
多き名
湯あり



伊香保

作

温泉功績

分拆表畧

あゝのいゝみ	レイマチス	血の不逞
神経痛	ま足の衰れ	の不振
ひふのやまひ	月水ふ腫	せんき
子宮病	筋力弱	まん白
里んびやう	せうから	瘡一ツ
きんきやう	うち身	くトミ
腫瘍	かつけ	

右の各症の病はあつた入浴し
 く温泉と経よく服用せられたる
 まるる著しとあり

温泉宿

- 木暮武志夫
- 木暮八郎
- 木暮金吉夫
- 島田平八郎
- 岸権三郎
- 岸六左卫门
- 永井喜八郎
- 大島甚左卫门
- 岸又左卫门
- 千明三郎
- 後閑弥六郎
- 壺田次郎



壺田権五郎
 福田金七郎

東京伊香保へ里程

- 日本橋 二里十五丁ヨ
- 板橋 二里十五丁ヨ
- 浦和 一里九丁ヨ
- 大宮 一里十八丁ヨ
- 上野 二里五丁ヨ
- 尾 一里一丁



桶川 一里二十五丁ヨ
 鷺の巣 四里十丁ヨ
 之 二里廿八丁ヨ
 新 二里廿九丁ヨ
 新 二里六丁ヨ
 倉野 一里廿六丁ヨ
 高崎 一里八丁ヨ
 二里廿四丁ヨ 一里

伊香保

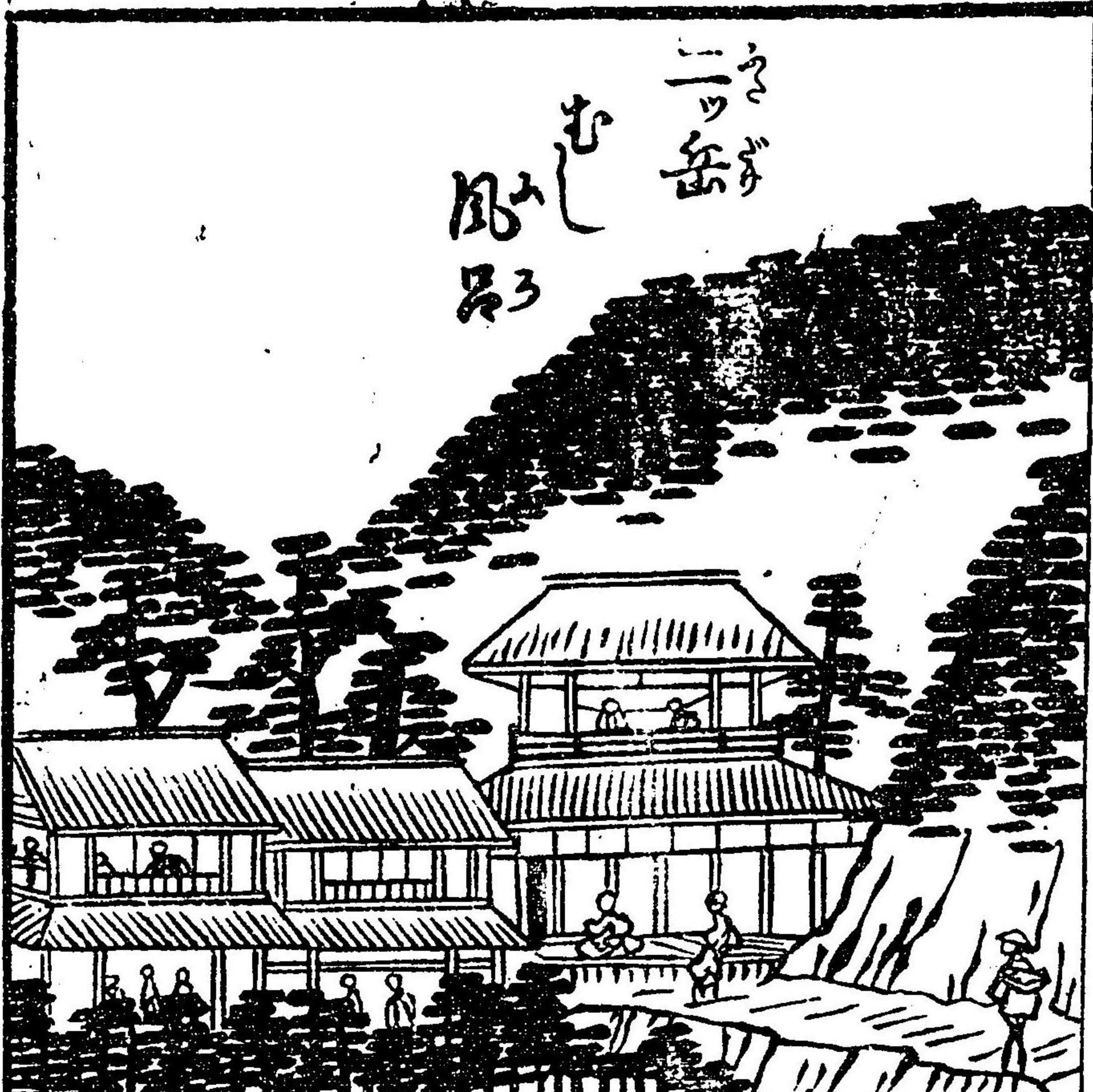


湯元不動 紅茶菴
 紅茶菴 主人 仙果子
 近年此処より 二ヶ岳へ便理の 近きとむしく
 伊香保 諸方へ里程
 東京 二十四里
 草津 十三里
 日光山 三十六里
 春名山 二里半
 本名 近き
 金古 柏木 二里廿八丁ヨ 一里半
 渋川 水原 二里半 二里半
 伊香保

伊香保

四

伊香保八景



妙義山	九里
善光寺	廿五里
富岡	九里
菊池	六里
音階	六里
相生	九里
沼田	七里
浮渡	七里
四萬	九里
二ッ嶽	三十丁
湯先不動	七丁
向山	

水沢寺 伊香保姫の傳

推古天皇の討高麗左大将
 家成との入宮人なり奉成
 ありて高麗に續せられ深
 瀬の字に在りて妻君ハ一男
 之女を疾しそ身なり一白衣
 松石の縣士某の妹と後妻
 ありたり一不勅免の者あり
 ありて家成之女後妻不
 ありけり長子家定と傳ひ



河原の
かたつたさ



二
の
山

南に上りて南に下りて
 継母の女をふくむ娘を年
 久る二女と妻を川に沈
 めて殺し控家の保壽保姫
 をも殺さんと志をく針り
 られども此娘は実母の色も
 色も千を撰喜の小娘と
 守袋よりけり肌を殺
 さぬが由人此が獲りよる
 死地を免く是後香保村の
 湯戸糸の家よりと悲び



向山の
の
み



物園山の
の
み

て南の女を南に下りて
 らせし後此附父家成ハ
 まりし後此附父家の家定
 日ありて下りて継母を里
 方へ馳別一湯戸の家族
 へ附れをむくひ此所の一
 家を南に下りて
 娘を官人吉光の妻とせし
 りて父母と娘の善揚のあり
 一字と違えん正と懸崖

丸山の
伝説



丸山の

傳正の影みられたる傳正
その孝行を感ずる者
へたり 積金殿のそと
そのお母と年寄とを
しるべ元より 靈殺の
ある傳正をれを緒人へ
利益をたえたるまゝ
かぎり 善母の如くあり
今坂東願札の十六番
徳山氷沢寺の具場する
をち 是あり



伊香保根の向隣

芳野の山小よりの

古書の傳記よるなり

五徳山水澤寺

寺納

兼堂

松本みえ

おとぎ

まごゆき

さうん

伊香保

まごゆきの

水澤

飯綱大権現

千手堂

奥の院山道

弘法大師

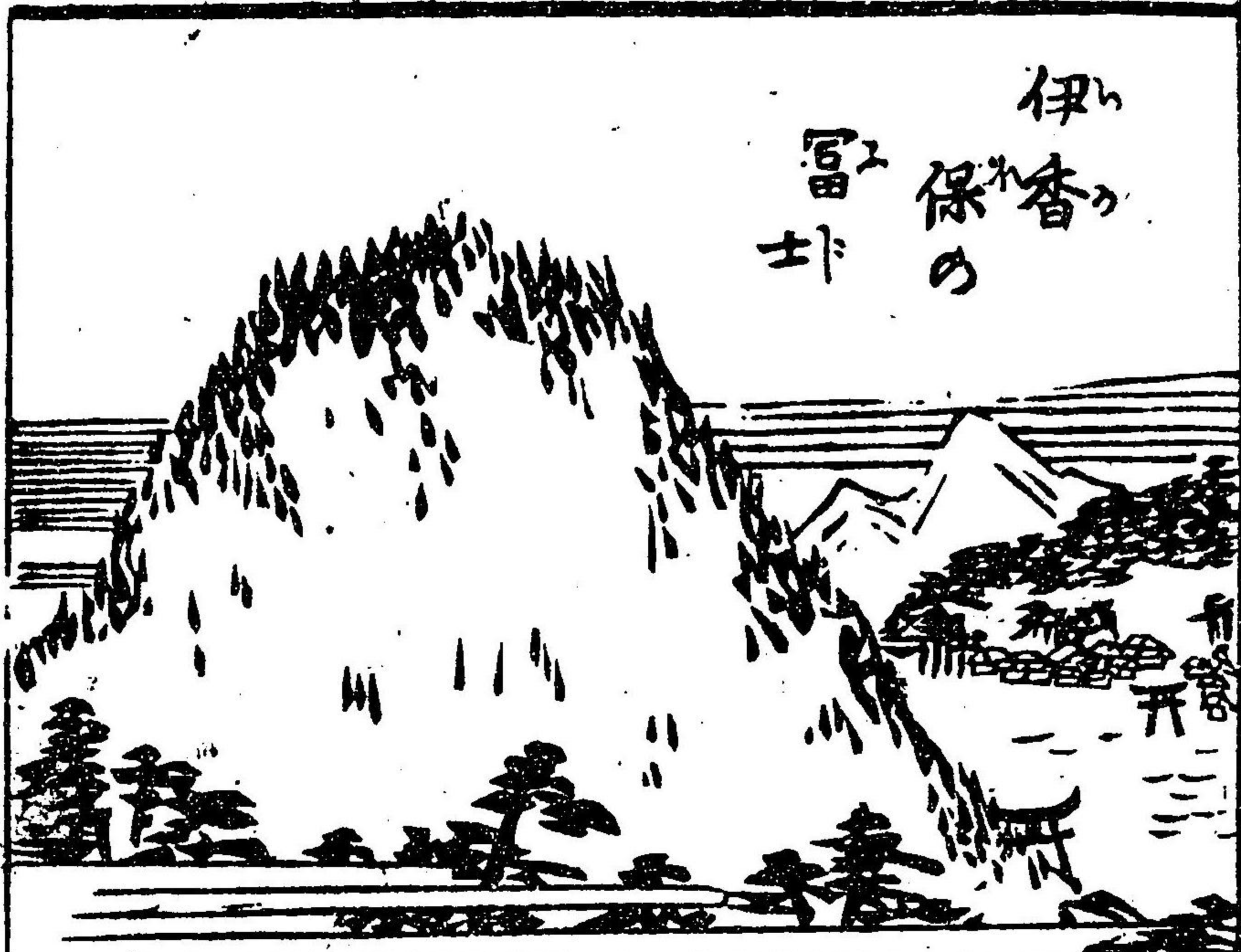
念佛堂

おまの
伊香保の
守佛の千手
観音の
東照宮
十六番の札あり

伊香保

の

富士



不入の滝

本沢寺あり
一里山あり





黒髪山

夕まはひ

ひやひ

黒髪山の

山

伊香保山

横の

松

の

山



子持山

石坂の

かの

山

男まの

子持

山

万葉巻



榛名山

山

宮殿

の

山

多



群馬

の

大

松

春

山

の

長

坂

平

と

り

の

春



御影の松

明治十二年

七月二十日

皇太后宮

伊香保の途中

伊香保の村の松は想へせ

らるお人あゝ祝歌

博房御又需々

新神よまを是を

清影の松と称嘆ま

皇太后宮御

万里小路博房御



皇太后宮御
万里小路博房御

古州草津温泉名跡舊

國利画

諸國温泉
遊覧記



万亭
應賀
編

浴室用室心



湯
入
湯
熱
の
研
の
と
た
ま
た
ま
と

伊香保

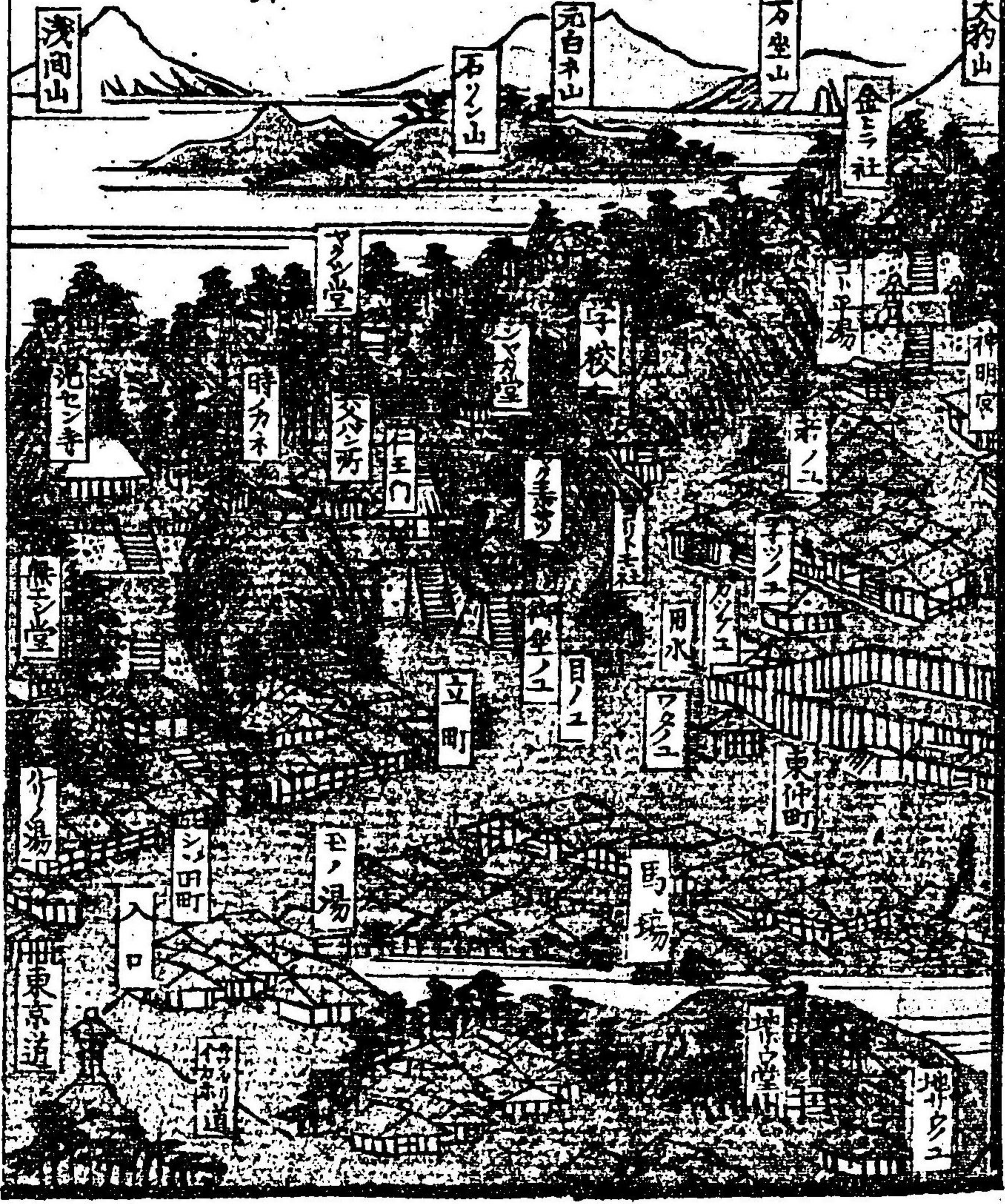
草津温泉

上野國吾妻郡
草津村

神代の者
大に貴の者
は悩ましく
る村宿名
奏那の号
温泉よ
活せさせ
久ハ忽小



草津の神
それより二神
國民の病疾
ゆて天折まると
あらまを救ひ
あそんとそ此靈
草津中津園と
あがらゆひた醫業
呪術湯名と
見出—を治





法と無人ふ

教へるひ

乃史より

信乃基

以法のお師又

備はと御

道治の指温

泉の池と開くま

室中あもあふの温

泉の特別の灵气

ありとをわねと小貴とる温泉もろふ
 今の人の醫業のそとあつて温泉の効
 をある者殆ど少し
 古人雙桂先生の著する温泉小
 云の書に温泉出現の理をききると
 病愈よりよく益あると書あるとの
 差別と終女しそれを醫者と始
 め諸人も必お心得るたりのなと
 其書の右トめ張あふおま
 九と温泉の功強に湯気張室通

温泉功然

あ	つ	ひ	せん
か	さ	あ	た
ら	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま
ま	ま	ま	ま

ト之留瘰癧と化導き肌體致
 何れも肉筋をよく利し經絡
 と乳血致めらう一切の瘰癧と
 破り瘰癧毒と排き托いし
 癰滯り致めらう一切の瘰癧
 濕とさう積聚疝癥胸腹脹の
 冷痛と腰脚のだるさを足の
 筋弛まう者のかうひこらた敷又
 を御乳うちをく下き一切の傷
 換下痢便毒瘡痔脱肛淋疾

孫おと	ホーケ
めまひ	たち今
志びれ	
この湯の象質を 考めかてめるがやま 想トる年ふるた ころ血のささるり りかたる一切の病ひ 梅毒のころふ効あり たゞ一敷とる病ひ ろ入湯と湯意を 登りとあり	

楊梅瘡の毒結毒疥癬癰瘰癧紫
 白癩風全瘰癧の瘰癧とていえざ
 る類婦人の血積瘰癧血経行不順
 帯下腰冷下利一切の病ひふし
 又温泉よまじくさる病ひの氣血
 虚損勞傷不足の症失血と津
 液乾燥の人脾胃虚勞の人勞瘵
 熱虚熱の人堅く語を金うらむ
 瘰癧へを病たりとも虚弱の人の必
 注意をべいと云ふ

- 温泉宿 ▲旧湯の処
- ▲ 山本十一郎
 - ▲ 湯本平内
 - ▲ 坂上治郎
 - ▲ 黒岩忠信郎
 - ▲ 湯本安平
 - ▲ 市川善三郎
 - ▲ 新納伊三郎
 - ▲ 山口幸八郎

洗の湯

二平 不動滝

十二平 茶所滝

二平 天狗滝



熱の湯

此名とりつと

湯のあまきと

あまきと



湯本市之郎
田村小茂右
市川安一郎
小林長藏
山本与平次
神林二平
山本勘十郎
中津市泉治
湯本彦一郎

瀬産の湯
頼朝公の
入浴せられ

湯まり



脚気の湯

此湯からけよ
強ゆるかゆ

名よよぶ



鷲の湯



青の湯

病とりませ

湯なり



神林定次郎
羽田五平
富永徳次郎
小林小文治
霜田國彦
市川又彦
黒岩定次郎
湯本半平

千代の湯
むじろの湯
洗心湯
あつとよ



地藏の湯
乳の湯
あつとよ湯
あつとよ



綿の湯
恥身とたて
あつとよ湯
あつとよ



松の湯
あつとよ湯
あつとよ湯



風の湯
あつとよ湯
あつとよ湯



琴平の湯
あつとよ湯
あつとよ湯



東京ヨリ當所へ里程

東京ヨリ高崎

高崎

神山

三の倉

おん田

大戸

河原湯

長原

草津

伊香保

伊香保

五町田

中の条

さくさく

暮坂峠

生須

草津

君子の湯

湯法とまき
雨宿り
此湯に入ると



贄川の湯

此湯に入ると
食物の味
おほくとる



富の湯

富の湯は
おと聞き
らんぞいおと



目の湯

月やまの人よ
まま
効あり



雑の湯

此湯に入る
者花の
姿とあるより



白壽の湯

色あまき人
け湯に入れば
白玉のこころあるとる



當所ヨリ諸方へ里程

東京 四十五里

高崎 十七里

伊香保 十三里余

前橋 十八里

富岡 十八里

白根山 三二里

彦根温泉 二里

栄庄温泉 三二里余

加沢温泉 九里

山田温泉 六里

浅間山 八里余

上田 十三里

志保 七里

善光寺 十四里

版山 十一里

返分 十一里

須坂 九里

松本 廿五里余

野村 廿六里

越後 廿二里

高田 廿二里

今所 廿二里

新湊 五十九里

草津二十景



白根の
宮と
並
白根
神社
向根
神社

常布滝
向布の
滝
流る



月洲寺
基の
基
月の
見え
月洲寺



折目系
袴
袴
袴
袴



西の
川
流る



殺生
の
河原
殺生
の
川
流る



鬼の
角力場
角力
角力



氷
氷
氷
氷

五津

孔子曾替ノ志ヲ
 問其答ニ曰
 不レ暮レ春者。春服
 既レ成。冠者。春
 六レ人。童子。五
 七レ人。浴乎沂。
 風乎舞雩。詠
 而歸。夫。子。與
 然歎曰。吾與
 也。



春の風景
 沂水の
 温泉
 舞雩
 浴生



金毘羅山
 茶の湯
 堂
 瑞雲
 茶の湯
 瑞雲



鬼の茶
 焼石の
 茶の湯
 蓮花
 蓮花

湯客の
出立の
振舞



下中
おん
出湯の
おん
おん
おん
おん





相州 温泉遊覽記

御届明治十五年五月三日
 東京下谷町三番地
 編者 服部應賀

府縣賣捌所

相州湯本 小川万右工門

豆州熱海 重田吉兵衛

同 修善寺 柏屋勇三

上州伊加保 廉盟 舍

上州草津 山幸十一郎

芝之島町 山中市兵衛

蛸壳町二丁目 善林喜兵衛

通三丁目 小林鉄次郎

馬喰町二丁目 吉田小吉

横山町二丁目 辻岡文助

東京神田鍛冶町六番地

版元 長谷川忠兵衛

